

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム武岡ハイランド
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市小野町2427-2
記入者名 (管理者)	関 和代
記入日	平成 22 年 2 月 28 日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や見学者又は電話での相談・問い合わせに応じている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義について理解しており、評価の結果を改善に向けて業務に取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告を基に参加メンバーからの意見や要望などを話し合いその結果をスタッフ会議や日々の引き継ぎ時に報告しサービス向上に生かしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口担当者や生活保護の担当者、地域包括センターの職員と情報交換を行いながら、質の向上に取り組んでいる。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期手に勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。必要なご家族へ情報を提供している。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフで身体拘束ゼロの介護に向けての勉強会に参加し認識している。又、声かけによる言葉の暴力についても常に情報交換しながら防止に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は必ず利用者本人やご家族と面談し不安や疑問について十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年介護相談員が派遣している。個別に利用者の相談や意見を表せる機会を設けており、それらの意見を基に運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月近況報告の通信を発行している。定期的に連絡し情報交換を行うと共に、ご家族の面会・外出時や特変時には随時報告している。金銭管理については、必要時電話連絡にて必ず了承を得ている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や定期的に家族へ連絡したり、アンケートを実施し意見や要望を求めている。結果をスタッフ会議で話し合い、運営やサービスの質の改善に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議時に意見や提案を聞く機会を設けており、業務に反映させている。又、個別にも必要時・定期的に面談を実施し意見を業務に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来るだけ利用者の状態に応じて、必要時職員を確保するため勤務の調整に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように移動を最小限度に抑えるよう努めている。離職入職時は説明し不安解消に努め、安心して過ごせるように支援している。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながら資格取得するためのトレーニングする事を強く勧めている。定期的に研修に参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他グループホームとの交流・情報交換を行っている。又同一法人のグループホームとは、随時情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内に衛生委員会があり、産業医による月1回のメンタルヘルスクア(健康相談)を実施している。又、親睦会を設けたり何でも話し合える環境作りを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の勤務状況を把握している。又、資格取得や研修会などの参加を勧め、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面談で、遠慮なくなんでも話せる環境を作り、本人の思いや不安を受け止め、できるだけ、信頼関係が築けるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前面談より出来るだけ何でも話せる環境作りに努め、ご家族の思いや悩みを受け止め、解消にむけて支援し、今後のケアに生かせるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に必要としている支援を見極め、他のサービス利用への検討、依頼、手続きの代行などを行いながら、対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前面談にて本人・ご家族の方に見学・説明を行い安心して入所できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事などを一緒に行い、利用者の知恵や経験を学びながら、支え合い、家族のように喜怒哀楽を共に過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を報告しながら、定期的に連絡を取り、情報交換しながら、一緒に本人を支える関係作りを築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族の今までの状況や思いを見極めながら、出来るだけ一緒の時間が過ごせるよう行事への参加や外出などを勧め、より良い関係が築けるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や以前利用していたデイサービスの利用者や職員が訪問しやすいような環境作りに努めている。又、入所前に利用していたストアでの買い物支援や手紙・電話連絡など、家族と情報交換しながら、本人の意志を尊重し自由に出来るよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の趣向や生活歴などの背景を考慮し、座る場所など提供している。自由に好きな場所で談話や家事が出来るよう、又、孤立する事がないようスタッフが調整役に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所時には、定期的に面会し状態把握に努め、利用者・ご家族・主治医との連携を継続し、必要時情報交換を行っている。ご家族の相談や悩みには状況に応じ対応している。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や言動より、思いに寄り添い、出来るだけ、本人の意向を把握するよう努めている。又、ご家族の方からも情報を得て検討し把握できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントやご家族や以前利用していた他のサービス事業者、主治医などからの情報を本人・家族と確認しながらスタッフ間で共有し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の状態を個別に観察しながら、出来る事と有する力などの現状を総合的に把握するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族から定期的に要望や意見を聞き、必要時は主治医など関係者からの意見を参考に、スタッフと定期的又日常的に情報交換しながら、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新前や必要時は、スタッフからの聞き取りや本人・ご家族からの意見や要望、主治医や訪問看護師からの意見を参考に、スタッフ間で検討し現状に応じた介護計画を作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、毎日の生活状態や食事・健康・排泄などの身体状況などを記録し、引き継ぎ時に報告すると共に、毎月のスタッフ会議で確認し合い、把握に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や理髪など、本人や家族の状況や要望に応じ、出来る限り応じられるように支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で過ごせるように、防災訓練や運営推進会議や各行事などのボランティアなどを通じて、情報交換し協力しながら支援している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態や希望に応じ、地域の訪問理髪サービスを利用している。又、必要時、ヘルパー事業所や福祉用具担当者への手続きの代行支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ参加してもらい、地域の高齢者の把握や待機者状況など情報交換に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医となっている。入所時に基本受診は家族支援である事の説明・同意を得ているが、不可能な方のヘルパー支援への手続きの代行や出来る範囲でのスタッフ支援を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の医師や看護師と連携を図り、状態に応じ情報交換を行っている。又、必要時は、家族の同意の下で、往診を依頼し、治療を受けられるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師と医療連携(24時間)を図り、定期的(週1回)健康管理を依頼している。又、毎日の健康チェック時の異常時や必要時は随時相談できる体制を整えている。緊急時など隣接事業所でもあり早急な医療活用の支援が可能である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、サマリーを提供し情報を共有している。定期的に利用者へ面会し状態観察し励ましている。家族や医師と今後について話し合い、情報交換に努めている。ホームでの生活が可能な場合には早急に受け入れ、必要時には訪問看護師と連携を図り医療処置を行いながらホームで生活が過ごせるように体制を作っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時や必要に応じてご家族や本人へ意向を確認している。状態変化に応じて、本人・ご家族・医師・看護師とカンファレンスを行いながら、今後の方針についても、スタッフ全員で、情報の共有化を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の思いを尊重し、家族と話し合いながら、穏やかな終末期が過ごせるように支援していく。急変した場合はすぐ対応して頂けるよう日頃より主治医や訪看などの医療機関とも密に連携を図っている。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活環境、支援内容や注意点など情報を提供し、出来るだけこれまでの生活が継続するよう支援している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、敬う気持ちを忘れずに言葉かけや日常での対応などでは十分配慮している。スタッフ会議時に話し合い、確認し職員の意識向上に努めている。又、記録物等の個人情報は、鍵付きの戸棚に保管し、契約時に説明している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の能力に応じ可能な限り、ゆったりした環境の中で自分の思いを表出できるよう又選べるような機会や場を提供している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、出来ているが、その日の状態や希望を出来るだけ取り入れて個別性のある支援ができるように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品を希望者は持参している。自分で出来ない方は本人の趣向に応じ、毎日の衣類を一緒に選んだり、希望に応じ髪染めを行っている。理美容は訪問サービス又は同行し、希望に添うよう支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れている。毎日、楽しみながら能力に応じた調理や盛り付け、片付けを行っている。利用者と同じテーブルで、静かな曲を流し、見守りながら一緒に食事を摂っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日定期的(10時・15時)におやつと飲み物を提供しているが、ご本人の希望時にも好みのおやつや飲み物を楽しめるように支援している。又、お茶を好まない方には紅茶やココア等を提供している。ご家族と連携を図りながら、スタッフ管理下で支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、できるだけトイレでの排泄を目指し、排泄パターンに応じたトイレ案内に努めている。食材の工夫やマッサージ、体操などの工夫を行い最終手段として薬での調整を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が朝風呂(温泉)を楽しみにしており、ゆっくり入れるように支援している。本人の希望を出来るだけ尊重するように努めている。時折、入浴剤やハーブなどの香りを楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態や希望に応じ空調を整え、いつでも好きな時間に気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。リビングの座敷でもいつでも休息できるような環境を作っている。不眠の利用者は、日中できるだけ活動を促し、状況に応じ眠剤の処方を見直しと検討している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活歴を参考に家事やレクの提供を行っている。得意な分野への提供を行い、楽しみや自信につながる様支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力量や希望に応じて金銭管理をしている。外出時は、能力に応じ、支払い時など見守るよう支援している。正月の参拝時は少額を使用してもらい、満足感が得られるよう支援している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて、晴天時は毎日散歩を計画し、洗濯物干し取り入れ、中庭の畑仕事など毎日外に出るようにしている。出来る範囲で利用者の希望に応じられるよう努めている。出来ない場合は、ご家族へ依頼し希望に添えるよう支援している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限り、利用者の希望を聞きながら、毎月の苑外レクレーションに計画している。お花見、NHK見学、秋祭り、運動会参加、外食などご家族と共に過ごす機会をつくり、支援している。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時いつでも電話連絡できるようにしている。又、ご家族が他施設に入所している場合、連携を図り、連絡できるように支援している。毎年、年賀状をご家族へ送っている。又、個別に手紙のやり取りを行っている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けておらず、いつでも都合が良い時に訪問できるようにしている。面会時は、居室でゆったりと居心地良く過ごせるようお茶やいすなどを提供している。	
(4)安心と安全を支える支援			


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての勉強会や資料を参考にスタッフ間で身体拘束をしないケアに対し、統一し、内容について熟知している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が鍵をかける事の弊害を理解している。利用者のその日の状態に応じ、声かけの工夫を行い、共に散歩に出かけたりしている。出来るだけ、安全が確保できる時間や箇所において開放するように努めている。建物の周りの環境により事故防止のため、入所時に家族・本人へ状況を説明し同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間で引継ぎ時にその日の認知状態について細かく情報交換し共有しながら支援している。日中は、スタッフ間でプライバシーに配慮しながらお互いに声かけし、夜間は最低でも1時間ごとに見回り、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくすのではなく、利用者の状態や状況に応じて臨機応変に対応できるように支援し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測した危険を防ぐ為の支援を行っている。マニュアルを作成し、全員に配布すると共に見える場所に掲示し非常時に活用できるようにしている。ヒヤリハットや事故報告などスタッフ会議で定期的に報告し、再発防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が緊急時の対応や蘇生法などの普通救命の修了書を取得している。定期的に勉強会を行い、急変時の対応が出来るように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応 策を話し合っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている	スタッフ全員が日頃の利用者の状態を把握しており、 異常時はバイタルサインや記録を行い、訪看や管理者 へ報告し、スタッフ間で情報を共有し、家族へ状態の説 明し受診支援を依頼している。場合により受診支援を 行っている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬の説明書を参考に内服薬一覧表を作成し、 確認できるようにしている。スタッフ会議時に確認し、共 有している。服薬時は三回確認し、手渡し確認まで 行っている。内容の変更時は引継ぎノートに記録しス タッフ間で確実に共有できるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる	排泄の状態を記録しており、個別に応じて食材の工夫 (繊維物、乳製品、水分など)しながらおやつや食事に 取り入れている。又、体操や散歩など身体の活動を通 して自然排便できるよう取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る	口腔ケアについて勉強会を実施し必要性を熟知してい る。毎食後の利用者の能力に応じた支援を徹底してい る。又、夜間は義歯洗浄を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	日々の献立内容を事前に栄養士が確認し、バランスの 摂れた栄養状態であるか、アドバイスを受けている。全 利用者の食事摂取量の把握と記録水分量は必要者の みを行っている。飲み込みの悪い利用者は食材の形 態を工夫しており、適時、栄養士や看護師の指導を受 けている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作成し、定期的にスタッフへ伝 達しており、早期発見、早期治療に努めている。食前・ 帰苑時の嗽・手洗いの徹底。面会時など、玄関に手指 の洗浄器を設置し、流行時はマスクの利用など協力を 依頼している。インフルエンザは家族の同意を得て、利 用者・スタッフ全員予防接種を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフの手洗いの励行、食前の手指消毒剤を使用している。又、夜間の調理器具の消毒、毎日注文先より新鮮な食材の調達、賞味期限についてもスタッフ間で情報交換しながら徹底している。又衛生を保つようにふきん・まな板の漂白、消毒液、乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には花や植木を置き、玄関には利用者の生けた花や作品が展示しており、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵画を飾り、毎月利用者と作成する季節の作品を各居室の入り口に掲示している。利用者の好みの曲やビデオなどを適時流し、心が安らぐ快適な環境の中で過ごしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本意で自由に日々を過ごしている。居室内や好きなリビングの場所(座敷・ソファなど)でゆっくり新聞や読書をされたり、気の合った利用者同士お茶や談話を楽しめる空間を提供している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談しながら危なくない物で使い慣れた物や必要な家具を持参して頂いている。又、消臭剤など使用し居心地が良い環境を提供している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室やリビングは毎朝換気を行うとともに定期的に空調の調整を行っており、外気温との大きな差がないよう努めている。利用者の状態やその日の状況により加湿器、空気清浄機や消臭剤(時にアロマ)などで対応し快適な環境で生活が送れるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造にしてあり、全居室・ホールの段差解消、居室の出入り箇所・トイレ・浴室に手すりの設置、浴槽や洗い場に滑り止めマット、シャワー椅子の設置。身体状況に応じ、車椅子、手押し車、歩行器、杖使用などにより安全面の確保と自立した生活が送れるよう配慮している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認知状態について、常にスタッフ間で情報交換しその日の状態に応じ、支援方法を工夫しながら自信をもって、その人らしく日々を過ごせるように支援している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には花や植木を置き、水撒きや草取りを日常的に行い楽しんでいる。中庭にはベンチを置き、他者との交流や散歩などの休憩に利用し季節や気候に応じて外での活動を楽しんで頂けるよう支援している。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設時より一貫して、スタッフ自ら入りたい又は家族や親戚に自信を持って勧めたいグループホームを目指しています。入居者・ご家族の方々の思いに寄り添い、安心して過ごせるように支援しています。個別性の重視や自立支援に向けてゆっくりした時間、ゆったりした空間の中で一人一人の思いを大切に、その日一日を笑顔いっぱい楽しく過ごせるように支援しています。